（財）日本陸上競技連盟
陸上競技研究紀要 Bulletin of Studies in Athletics of JAAF
第2巻 2006 Vol.2 2006

全国高等学校総合体育大会でのサプリメント摂取状況調査

石井好二郎
北海道大学

昨年度に引き続き，今年度も全国高等学校総合体育大会（IH）入賞陸上競技選手を対象にサプリメント摂取状況の調査を実施した。入賞者にアンケート（多種目入賞者には1通）を配布し回答の得られたのは108名（男59名，女49名）であり，その回収率は30.9%であった（昨年度は17.7%）。

Gatorade Sports Science Institute(2004)によれば，米国の高校生アスリートの38%がサプリメントを常用していると報告されている。ジュニア選手のサプリメント使用がドーピングへの危険性を高めることが懸念されている（Steen, 1996)。このような背景より，北米では，学会レベルで競技者のサプリメント摂取に対する公式見解が提案されている(ACSM/ADA/DC, 2000)。今年度の調査結果では，IH入賞者の約64%がサプリメントを常用していた（昨年度は約66%)。すなわち，日本の陸上ジュニア選手はアメリカのジュニア選手よりも高率にサプリメントを摂取していることは，ほぼ間違いないようである。本調査は後3年続けられる予定であり，詳細な検討については計5年間の集積データより分析する方向で進められている。

北海道マラソン暑さ対策研究

昨年より，腎機能をタンパク量の影響を受けることなく測定できるシスタチンCを測定項目に入れ検討を行っている。2005年の北海道マラソンは暑熱環境下でのレースとなり，比較的冷涼であった昨年の大会と比較することにより，暑熱環境の影響について，さらに検討することができた。詳細については「陸上競技研究紀要」に述べているので割愛する。